

総合科学技術会議が必要と認め指定して 行う評価対象の選定(案)

総合科学技術会議が必要と認め指定して行う評価の対象は、(ア)新たに開始が予定される大規模な研究開発課題*、及び (イ)総合科学技術会議が次の視点から選定する研究開発課題**である。

- 科学技術や社会経済の情勢の変化等により計画の大幅な見直しや改善が必要なもの。
- 目標の達成度が不十分であるなど、研究開発の進行に著しい遅れが認められるもの。
- 社会的関心が高く評価が求められるもの。
- 複数の府省にまたがって実施されているもので、総合的な推進を図る見地から評価が求められるもの。

*：設備整備費総額が約 300 億円以上、または設備整備費及び運用費等の総額が約 500 億円以上。

**：研究開発課題の選定に当たっては、あらかじめ評価専門調査会で調査・検討し、総合科学技術会議で決定する。

本ヒアリングでは、(イ)の課題について、(1)当該研究開発が上記の選定の視点のいずれかに該当するか否か、(2)総合科学技術会議が指定して評価する場合に、時期や方法等で留意すべき点は何かについて、評価専門調査会として調査・検討することを目的としている。

【ヒアリングにおける主要な確認事項】

大型放射光施設 (SPring-8) 計画

民間等の利用状況、中間評価の結果等。

国際宇宙ステーション計画

期待される効果と費用との関係、米国での計画見直しを受けた全体計画の状況等。

《参考》

総合科学技術会議は、指定して評価を行う場合は、以下の項目について調査・検討することとしている。また、評価対象課題を選定して行う場合には、当該課題の選定理由(前頁枠内のいずれか)と関連した項目を中心に調査・検討を行うこととしている。

選定された場合の、調査・検討のポイント

A．科学技術上の意義

当該研究開発の科学技術上の目的・意義・効果。

B．社会・経済上の意義

当該研究開発の社会・経済上の目的・意義・効果。

C．国際関係上の意義

国際社会における貢献・役割分担、外交政策との整合性、及び国益上の意義・効果。

D．計画の妥当性

目標・期間・資金・体制・人材や安全・環境・文化・倫理面などからの妥当性。

E．成果、運営、達成度等

投入資源に対する成果、運営の効率性、及び目標の達成度等。評価結果の反映状況の確認等。